

(様式第9 別紙2:公開版)

養成技術者の研究・研修成果等

1. 養成技術者氏名: 柿沼 瑞穂

2. 養成カリキュラム名: 国立大学法人における効果的な産官学連携方法の研究

3. 養成カリキュラムの達成状況

本カリキュラムは予定どおり達成した。

4. 成果

本学の産官学連携活動は、全国のトップクラスにあり、その強みを更に強くすべく、本学の中期目標・中期計画には、「研究成果の社会への還元」が大きくうたわれ、以下の目標を掲げている。

- 1) 研究で得た成果を人類共通の財産として広く社会に還元する
- 2) 社会の持続的な発展および人類の知的・文化的・物質的生活の向上に貢献する
- 3) 研究連携を通して大学と社会がともに利益を得る体制を構築し、知的創造サイクルの形成を目指す
- 4) 研究者の倫理意識を向上する

こうした目標に向けた産官学連携活動推進の具体的方策には、本学の教育研究情報の広報、共同研究、技術移転、大学発ベンチャー創出・育成の推進等があげられる。平成13年に農工大TLOの設立、平成15年11月文部科学省の大学知的財産整備事業の下に、産官学連携・知的財産センターを設置した。また、平成16年4月1日の国立大学法人への移行に伴い、共同研究施設、インキュベータ、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー(VBL)から成る“産官学連携・知的財産センター”を、新しく発足させ、職務発明等の大学帰属に伴う知的財産の創造・保護・活用の自律的な運営体制を整えた。

NEDOフェローの活動は、産官学連携・知的財産センターにおける産官学連携推進への方策に基づき養成研究カリキュラムを設定し、それに即して実施した。更に、NEDOフェローのこれまでの経歴を生かし、農学・バイオ分野における産官学連携の推進というミッションを掲げ、府中キャンパスにおける産官学連携・知的財産センターサテライトの設置や体制作り、農学・バイオ分野における技術移転活動、知的財産保護・活用/共同研究の推進に注力した。平成15年度の成果は次のとおりである。

国立大学法人東京農工大学における産官学連携の仕組みの構築

(学内体制・規則の整備)

以下の活動に参加し、農工大の新たな仕組みの構築と自己の知見の習得を図っている。

- ・産官学連携・知的財産センターの法人化後の在り方に関する準備検討委員会
- ・工学部研究・産官学連携推進委員会
- ・共同研究開発センター運営委員会
- ・府中サテライトWG
- ・利益相反WG

(調査)

産官学連携活動に有益な情報入手と人的チャンネル構築のため、調査活動を行った。

- ・ 海外事例調査 (中国上海市・華東理工大学、スウェーデン、フィンランド)
- ・ 府中キャンパスにおける外部資金獲得状況の調査
- ・ 大学ファンド設置のための学外の専門的な有力情報の調査

大学発ベンチャー企業の起業支援とスキルアップ (スピンオフ)

農工大発ベンチャーの創出と育成、及び自己のスキルアップのため、以下推進中である。

(システム創成)

- ・ 農工大インキュベータの運営システムの構築
- ・ V B L との連携の仕組み構築
- ・ 国内外の大学発ベンチャーの実態調査と農工大への反映

(入居起業等の発掘及び育成支援)

- ・ 大学発ベンチャーの発掘 (V B L、府中サテライトの活用含む)
- ・ 入居企業等の個別支援 (直接的支援、経営、財務、法務に関する専門家の紹介等)
- ・ インキュベータセミナーの開催

(自己のスキルアップ、施設のレベルアップ)

- ・ (財)日本立地センターのインキュベーションマネージャー研修の修了
- ・ インキュベーション施設訪問 (大学、公的機関、民間)

社会貢献を目的とした農工大シーズの作成、発信、及び活用の推進

農工大シーズを、効果的に社会に還元できる研究シーズ集の作成プロジェクトをとりまとめ、新規シーズ集の発刊を実現した。

- ・ 農工大の新規研究シーズ集の企画、作成、とりまとめ、及び発信 (2004版の発刊)
- ・ 農学部、及び工学部バイオ分野を主対象とする個別技術シーズの発掘と収集

また、広報・展示活動等のプラザ事業を積極的にリード、学外に果敢に発信中である。

- ・ ホームページの刷新：新時代にふさわしい内容の平成16年度版を企画、作成、発信
- ・ 展示会・マッチング交流会への出展企画：2004年度12件実施

技術移転と知的財産の保護・活用の推進 (ライセンス・共同研究)

産官学連携・知的財産センターでは、本学の研究成果を関連ある特許と併せて特許ポートフォリオを作成し、これを産業界にアピールして共同研究の拡充と企業への技術移転を促進する。また、ライセンス等の知的財産の活用については、知的財産部が農工大ティー・エル・オー株式会社と連携して行っている。そのため、両組織と連携を取りながらの技術移転活動を遂行した。

また、農学・バイオ案件について、知的財産保護・活用 / 共同研究の積極的な推進を行った。

(技術移転活動)

- ・ 農工大ティー・エル・オー株式会社での技術移転活動の実践
- ・ 技術相談及び特許相談：主として農学部教員・学生に対する機会の提供と支援

(知的財産保護・活用 / 共同研究の推進)

- ・ 競争的資金獲得のための情報収集と学内に対する発信
- ・ 競争的資金獲得のためのプロジェクト企画、戦略策定、及び契約等に関する教職員の支援
- ・ 民間等との共同研究等に関するリエゾン活動推進と支援

- ・ モデルとなる他大学の産官学連携に関する情報の収集、及び本学への導入
(スキルアップ)
学外機関との交流、及び知的財産保護に関する講習会・研修への参加

4. 成果の対外的発表等

- (1) 論文発表(論文掲載済、または査読済を対象。コピーを添付。)

府中キャンパスにおける産官学連携を考える、東京農工大学産官学連携・知的財産に関する
論文集 (Vol.1) P.61-68

新NEDOフェローの抱負、CENTER NEWS No.26、P.48-49、東京農工大学共同研究開発セン
ター

NEDOフェロー活動報告、CENTER NEWS No.27、P.39-40、東京農工大学共同研究開発セン
ター(産官学連携・知的財産センター)

- (2) 口頭発表(発表済を対象。予稿集のコピーを添付。)
なし

- (3) 特許等(出願番号を記載)
なし